

令和3年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県南会場

科目 ①障害児の支援

- ◆ 今回の講義は、特別な配慮を必要とする子どもに対するものでした。私のいる学童クラブには対象となる子がいませんが、普通の子どもたちにもあてはまるなと思い、聞いていました。特徴を知り、困り感を知り、対応の工夫をする。そして、安心・安定して過ごすことが大事。ほめることも同じで、それぞれに合ったほめ方を見極めることが大事だと思いました。
- ◆ 初めて「リフレーミング」という言葉を耳にし、短所を長所に言い換えること、相手を理解、共感することが大切だと再認識できました。日々、配慮を必要とする子ども数人を相手にし、それぞれの特徴に合った対応に努めていますが、支援員との相性や状況、他の児童がいる立場上、上手に対応できていないのでは、と思うときもあります。障害児に限らず誰でもほめられれば気持ち良く過ごせるはず。頑張りたいです。
- ◆ 障害児といっても、その中には色々あるということ、その子どもから見るとどのように見えているのか、どう感じているのか、少し教えられた気がします。それに対してどう支援できるのか。具体的に絵や写真を使ったり、話を否定して正すのではなく、言葉を補うということが大変参考になりました。誰でも否定されるとかえって反発したくなることも良く分かります。これらを頭に置きながら、これからの放課後児童支援を行っていきたいと思います。
- ◆ 勤務している児童クラブにも診断名の付いている児童、グレーゾーンであると感じる児童が複数います。小学校内になる児童クラブなので、先生を校内でお見かけした際には気になる様子や行動等をお伝えしたり、クラブ内で手に負えない状況になった際には先生に来てもらい対応しています。まだまだ学校での様子が分からないため、新目先生がおっしゃっていたように学校との連携不足を少しでも解消していければと思います。
- ◆ 障害児の支援の難しさを日々感じていた私にとって、今回の新目先生の講義はとても大きなヒントを頂いたように感じました。一つ一つ子どもたちとしっかり向き合っていきたいと思います。そして、障害が見えない子どもへの対応も出来るようになりたいと思います。新目先生のお話は全支援員にも聞いてほしいと強く感じました。子どもたちは親にとって皆「宝者」だと思います。比べるのではなく、その子の良さを見つけてほめてあげたいです。